

目次

(1) 事業報告

- 在関西総領事館と連携した防災ワークショップ
- ボランティアコーディネート研修
- 大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業
- ベトナム・インドネシア学生交流事業

(2) 大阪府外国人情報コーナー

- 永住許可に関して

(3) OFIX国際交流員レポート

- 進み続けるフィリピン人

折り込み記事 おおさかグローバルレターVOL4

(1) 事業報告

■ 在関西総領事館と連携した防災ワークショップ

当財団では近畿の府県・政令都市で構成する近畿地域国際化協会連絡協議会の共催を得て、11月19日(火)に、在関西総領事館関係者、外務省大阪分室、法務省大阪入国管理局、近畿各府県・政令市及び国際交流協会の担当者59名が一堂に会して「在関西総領事館と連携した防災ワークショップ」をマイドームおおさかにて開催しました。

まず、英国総領事館とフィリピン総領事館から「防災における取組」についての講演、そして神戸市から「災害時の外国人住民対応並びに在外公館対応」についての事例報告を行っていたが、最後に意見交換を行いました。



折りしもスーパー台風ハイアンがフィリピンのレイテ島を襲った

直後であったため、会場は熱気にあふれる議論が展開されました。

意見交換で寄せられた主な意見をご紹介します。

Q 南海トラフ地震が起きた場合の被害想定を教えてください。また、災害時の緊急速報メールを他言語で受信することはできるのか？(インド総領事館)

A 被害想定に関しては国が発表している。兵庫県に関しては今現在計算中である。緊急速報メールについては、兵庫

防災ネットで事前に言語を選択しておく、その言語でのメールを受信できる。(神戸市)

A 被害想定や災害情報は大阪府のホームページに連載しており、今年度中には次期防災計画を発表する予定である。また防災情報のホームページも現在日本語のみなので、多言語化していきたい。(大阪府危機管理室)

Q 日本に暮らす英国人、その他旅行やビジネスでの訪日者の災害時の安否確認はどのように対応すればよいのか。(英国総領事館)

A 東日本大震災を例に挙げれば、各自治体での対応は難しいため、東京の大使館等に自国民の安否に関する照会が取りまとめられ、そこから外務省そして警察に安否確認の照会がなされた。今後は災害の規模にもよるが即急に大阪分室からも情報を発信できるような制度に変えていく検討の余地がある。(外務省 大阪分室)

Q 日本の情報公開法はプライバシー保護の観点から制限が強すぎる。アメリカのように緊急時の安否確認の場合は、こうした制限を撤廃するような制度改正が必要と思う。(アメリカ総領事館)

今回のこうした議論をふまえ、近畿地域国際化協会連絡協議会において、防災ワークショップの進め方等について検討を行っていききたいと思います。

■ ボランティアコーディネート研修

当財団では今年度から、外国人支援に関わる担当者間のネットワークの構築や、ボランティアの育成・派遣制度の検討等を目的として、大阪府内市町村及び地域国際交流協会担当者を対象とした『ボランティアコーディネート研修』を実施しています。

10月24日に開催した第1回目の研修には、15名の市町村・協会担当者の方々にご参加いただき、現状における語学ボランティアの研修や登録・派遣制度などの問題点につい

て参加者全員から報告の後、コミュニティ通訳ボランティア～資質に関する面接ガイド～の活用方法を紹介いたしました。

また来年2月に開催を予定している第2回研修では、コミュニティ通訳・翻訳ボランティアの語学スキル評価について、意見交換等をする予定です。

今後も当財団では担当者の方々からのご意見や希望等を参考に、府全域での多言語支援体制づくりの推進を目指し、ボランティアコーディネート研修を実施してまいります。

■ 大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業

今年で21回目を迎える大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業ではアジアの8カ国から建築・芸術を専門とする8名の研修生を迎え、9月26日からの約1カ月の研修を実施しました。10月23日にはすべてのプログラムを終了し、全員無事帰国し終了いたしました。

当事業は安藤忠雄氏の寄付金と、当事業の趣旨に賛同された企業の協賛金をもとにOFIXが毎年実施しており、アジアの若者に日本の建築や芸術等を学ぶ機会を提供することにより日本文化等に対する理解と関心を深め、母国の建築・芸術の発展に寄与することを目的としています。

(株)大林組、(株)銭高組、大和ハウス工業(株)及び(株)竹中工務店での12日間に渡る企業研修では、最新技術の説明、工事現場視察や設計部でのデザインワークなど各社様々な研修内容のもと、熱心なご指導をいただきました。

安藤忠雄氏への表敬訪問は、研修生にとって一生の思い出



(淡路島 本福寺にて)

となる素晴らしい機会でした。司馬遼太郎記念館等府内安藤氏設計建築物視察及び淡路島夢舞台・本福寺見学では安藤事務所のスタッフの方にご同行頂き、安藤建築について深く学ぶ貴重な経験となりました。

また、専門分野である建築については、「持続可能な地球環境における建築の再建と保存」「デザイナーの責任：自然と人の共生」をテーマにプレゼンテーションを行い、活発な意見交換とアカデミックな討論が行われました。さらに、大阪府立大学及び神戸芸術工科大学の学生との交流事業や、1泊2日のホームステイでは、将来につな



(大阪府立大学 英語プロジェクトの様子)

る人脈と多くの思い出をつくることができました。

約一カ月間の本事業では多くの方々にご協力いただき、研修生も建築だけでなく人情味あふれる大阪の文化や人に触れ多くを学ぶ機会となりました。

◆ 帰国した研修生に研修についてのEメールインタビューを実施しましたので、代表的な回答をご紹介します。

Q 大阪の印象について教えてください。あなたの街との違いは何ですか？

A 大阪の人々はフレンドリーで、街は清潔で安全だと感じました。

A 交通機関はとても便利で、洗練された建築技術や高度に発達した道路網は私の街では見られないものです。

Q 企業研修はどうでしたか？また何を学びましたか？

A プロジェクトをどう進めていくかという一連の流れについて学び、スタッフの方の仕事に対する勤勉さそして責任感には感銘を受けました。

A 建築現場視察や講義に加え、ある大学を再デザインするプロジェクトに取り組みました。社内では誰もが熱心にどんなに難解な仕事にも全力で取り組んでおられたのが印象に残っています。

Q 安藤プログラムでの一番の思い出は何ですか？

A 安藤先生にお会いし、世界の建築や生き方についてのお話しか聞けたことです。

A 大阪での長期滞在を通し、日本の生活習慣や文化について深く学び、理解することができたことです。

A 建築だけでなく、日本の生活を体験できたことです。毎朝目覚めるとまるで日本人の一人として生活しているような気がしました。

Q これからのキャリアプランについて教えてください。

A 今現在大学の研究室で伝統的な漁村住宅の研究をしていますが、将来は教師になり、自分の経験や知識を伝えたいです。

A 将来は自身の倫理観やアイデアを活かせる自分の建築事務所を立ち上げたいです。

◆研修生一覧

氏名	出身国	研修先企業
ウタミ アディンダ シ ピナスティ レトノ	インドネシア	大林組
リラームバニック カージビット	タイ	大林組
サル克蘭 プリヤンカ	インド	銭高組
ケー シー アピル	ネパール	銭高組
クブクピン グレンダ	フィリピン	大和ハウス工業
カルナナヤケ スランガ	スリランカ	大和ハウス工業
ミャオ ティン	中国	竹中工務店
ゴジン サラ	イラン	竹中工務店

■ ベトナム・インドネシア学生交流事業

大阪府国際化戦略実行委員会が、昨年度から実施している大阪府国際化戦略アクションプログラム大阪留学プロモーション事業「JAPAN OSAKA 留学&就職フェア」に、大阪府国際交流財団として「ベトナム・インドネシア学生交流事業」を実施し、フェアに参加しました。交流事業に参加した交流生達は、9月21、22日のインドネシア（ジャカルタ）フェア、11月3、4日のベトナム（ホーチミン）フェアに向けて、春から企画、準備を進めてきました。各国のフェアで交流生達は、大阪の魅力や日本での留学生活体験談についてプレゼンテーションを行ったほか、大阪の魅力や日本での留学生活の紹介資料の展示のほかセミナーを実施しました。また留学相談コーナーでは日本への留学を希望する現地の学生からの質問に答えました。

◆ インドネシア（ジャカルタ）フェアに参加して

大阪大学 外国語学部 4年 伊藤 延繁

インドネシア語を専攻する学生としてこの事業に参加できたことを大変光栄に感じています。現地におけるプロモーション



(インドネシアフェアでのプレゼンテーション)

ンでは、インドネシアの学生の熱意や彼らの国民性とも言える明るさを肌で感じることができました。同時に、学生の受け入れ先としての大阪の魅力を再認識することができました。当初は自らも懐疑的ではありましたが、今は大阪とインドネシアの学生の潜在的な相性に疑問はありません。今後も機会があれば、大阪とインドネシアの関係がより深まるよう、自分なりの役割を果たせたらと考えています。



(インドネシアフェアでのセミナー)

◆ ベトナム（ホーチミン）フェアに参加して

大阪府立大学 大学院 理学系研究科 修士2年
山本 隆也

今回の学生交流事業を通して感じたことがたくさんあります。特に感じたことは、他の人、他国の人と協力・協調しながら一つの仕事を進めていくことの難しさと面白さで



(ベトナムフェアでのパネルトーク)

す。交流生は数か月間、今回の交流事業の資料作成などの準備を進めてきました。その過程において、互いに連絡を取り合ったり、作業を分担することが時に困難なこともありましたが、全員でアイデアを出し合っ、一つのものを作り上げる作業は創造的でとても面白いものでありました。

大阪府立大学 工学部 電気情報システム工学科 博士3年
レバルアン

私は、昔からベトナムと日本をつなぐ架け橋になりたいと思っていました。今回、それを叶える素晴らしい機会を得ることができました。



(ベトナムフェアでのプレゼンテーション)

ベトナムでのフェアの間、関係者のご協力を得て、山本さんと私は円滑にフェアの活動ができました。今回のフェアで大阪の人々や生活についてベトナムの学生に初めて紹介しました。多くの学生が、大阪で研究や仕事がしたいと考えている事を知り、私は感嘆しました。そういった学生に対してとても有益な情報を発信できたと感じました。

